

牛島千尋先生のご退職によせて

社会学科主任 桐原宏行

平成 26 年 3 月をもって、牛島千尋先生がご退職されます。牛島先生は、生年 1949 年、島根県邑智郡瑞穂町（現・邑南町）のご出身で、広島大学教育学部附属高等学校、埼玉大学教養学部卒業現代社会学コースをご卒業、東京都立大学大学院社会科学研究科社会学専攻博士課程を終えられ、大学教員としての道を歩まれ、平成 12 年に駒澤大学にご就任、14 年間奉職されました。

先生は都市社会学がご専門であり、「東京圏の都市サイクルの郊外化、都心化段階における地域変容」「加速的都心化段階（再都市化）における市街地再開発地区の地域変容と居住者の変化」「戦前期の東京における新中間層の増大と郊外化がもたらした社会的・空間的意味」などをテーマとして、都市社会学、社会階層・階級論の視点から研究をすすめられ、数多くの成果を残されています。

また、ご就任以来、社会学科主任、人文科学研究科社会学専攻主任、大学院人文科学第二研究科自己点検・評価委員長などの大学運営の重責を担われました。

私は、牛島先生が就任された 1 年後に社会学科の教員として就任しました。当時を思い起こすと、社会学科は重鎮の先生方が顔を揃えられており、会議では、冗談のひとつも出てくる隙のない、張り詰めた空気が漂っていました。女性教員は牛島先生お一人でしたが、そのような雰囲気にあっても、堂々とした存在感を示されていました。第一印象は、厳格で、愛想笑いなどの他者に媚びる態度は一切見せられない方なのかな…と思いました。しかし、お話ししてみると、話しをきちんと聞いてくださり、相手の立場に立ってコミュニケーション

ンされる「真のあたたかさ」を実感でき、それ以降、牛島先生の誠実なお人柄にどんどん引き込まれていきました。

13年間、社会学科で一緒にいた中で、多くのことを先生から学ばせていただきました。教育面では、会議などで学生の話題になると、いつも学生の立場を理解しようとする姿勢で発言されていました。これまでに、学生に対して否定的な感情を示し、叱責される姿を見たことがありません。このことから推察すると、授業やゼミの指導において学生をしっかりと受けとめ、「あたたかな信頼関係」を築いていらっしゃったことがよく理解できます。

また、組織運営では、先生の公平な見方とバランスのよい人間関係の構築力を随所に発揮されていました。「偏らない」「押しつけない」「相手を思いやる態度」の三拍子で、多くの難問を円滑に処理されていました。先生の自然体で中庸な態度に「組織人」としてのあり方を教えていただきました。

余談になりますが、教授会では、先生と隣り合わせになる機会が多くありました。時に会議は、冗長で退屈になるものですが、ずっと沈黙されていた牛島先生が突然「つぶやき」を始められる場面にたびたび遭遇しました。またこの「つぶやき」が実に会議の内容や状況を踏まえたい的を射たご発言であり、「ごもとも！」といつも心の中で頷いていました。ちょっとした機会ではありましたが、端的に物事を判断される場面から多くの気づきをいただけたことが、会議を退屈な場から、組織を理解していく学習の場へと変化させてくれました。このようなところにも、先生の物事に対して、常に真摯に向き合われる姿がありました。

まだまだ教えていただきたいことは尽きず、なごり惜しい限りですが、先生に尊敬と感謝の思いを込めつつ、これからの益々のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

牛島千尋教授 主要著書・論文等

- 「余暇と都市生活－余暇の社会学的研究のためのパースペクティヴ－」『社会学評論』28-1 日本都市社会学会 1977
- 「余暇集団と地域社会生活－地方都市における余暇集団形成とその社会・文化的背景」『国民生活研究』17-3 国民生活センター 1977
- J. デュマズディエ著『レジャー社会学』1981(翻訳)
- 「低成長化、出稼ぎ労働者の就労地における生活と意識」『研究所年報』14 明治学院大学社会科学部附属研究所 1984
- 「鹿児島県の出稼ぎ地帯の変容と現状」『研究所年報』15 明治学院大学社会科学部附属研究所 1985
- 「丹後機業地の社会変動と地域社会集団の変容」『研究所年報』1 明治学院大学社会科学部附属研究所 1986
- 『東京の社会地図』東京大学出版会 倉沢進編 1986
- 「女性・職業・社会階級－女性の階級的地位の確定のための第三の方法をめぐって－」『研究所年報』17 明治学院大学社会科学部附属研究所 1987
- 『出稼ぎの総合的研究』東京大学出版会 渡辺栄・羽田新編 1987
- 「過疎化地域の社会移動－鹿児島県佐多町三地区出身者の地域移動と職業選択－」『研究所年報』18 明治学院大学社会科学部附属研究所 1988
- 「東京インナーエリアの史的展開」『研究所年報』19 東京都立大学都市研究センター 1988
- 「女性労働とM字型パターンをめぐる問題状況の検討」『研究所年報』19 明治学院大学社会科学部附属研究所 1989
- 「女性就労者の職業移動と就労経歴」『研究所年報』20 明治学院大学社会科学部附属研究所 1990
- K. プラマー著『生活記録の社会学』光生社 1991(翻訳)
- 『大都市社会のリストラクチャリング－東京のインナーシティ問題』日本評論社 高橋勇悦編 1992

- 『都市青年の意識と行動－若者たちの東京・神戸 90's－分析篇』 恒星社厚生閣 高橋勇悦・川崎賢一・芳賀学・小川博司編 1995.
- 『ジェンダーと社会階級』 恒星社厚生閣 1995
- 『大都市における都市構造の転換と社会移動に関する実証的研究』 文部省科学研究費補助金研究成果報告書 1999
- 『脱工業型都市の社会分析：サービス・クラス増大の社会学的意味』 文部省科学研究費補助金研究成果報告書 1999
- 「階級論の再生と発展へ向けて 橋本健二著『現代日本の階級構造：理論・方法・計量分析』 『社会学評論』51.3 日本社会学会（書評論文） 2000
- 「東京圏における郊外人口の特徴と居住分化－1970年代～1990年代－」 『日本都市社会学会年報』19 日本都市社会学会 2001
- 「戦間期の東京における新中間層と「女中」－もう一つの郊外化」 『社会学評論』52.2 日本社会学会 2001
- 『21世紀の都市社会学』 恒星社厚生閣 2002
- 『大都市郊外の歴史的変遷と地域変容の実証的研究』 文部省科学研究費補助金研究成果報告書（代表・牛島千尋） 2004
- 「東京 60 km圏の都市サイクルと都心回帰」 『駒澤大学文学部研究紀要』63 駒澤大学 2005
- 「東京 60 圏の都市サイクルと都市の拡大・縮小」 『駒澤大学文学部研究紀要』70 駒澤大学 2012
- 「東京 60 km圏にみる日本の都市サイクルの現在」 『都市問題』104 後藤・安田記念東京都市研究所 2013
- 「再都市化段階における東京の市街地再開発と地域変容」 『駒澤社会学研究』46 駒澤大学文学部社会学科 2014